

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300051		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム まちぐるみ		
所在地	岩手県大船渡市盛町字町3-1		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個別介護計画はコンピューターシステム「ちょうじゅ」を導入しており、科学的ケアの実践に努め、また利用者の幼少期から入所直前までの生活歴等を勘案し、全人的なケアの提供に努めている。当事業所が所在する地は、盛町商店街の中心地に立地しており、利用者の食材等の調理等はできるだけ商店街で買物をし、地域交流の一環として捉え、加えて商店街の活性化の一助にもなっていると認識している。また、事業所名のとおり認知症の利用者を「まちぐるみ」で支えていこうという観点から、パブリックスペース等を活用した地域交流の機会を数多く設けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390300051&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390300051&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成22年10月15日		

「まちぐるみ」は商店街の中心地に、社会福祉法人成仁会のグループホームとして、2年前に開設された。併設の特養ホーム蔵ハウスとも協力し、法人の「すべては愛から始まる」をモットーに、まちぐるみ福祉の拠点として、具体的方針と8項目にわたる目標を設定し取り組んでいる。またコンピューターシステムを導入し、生活面のすべてを細かくチェック出来る科学的ケアの実践に努めている。玄関に入ってすぐの趣向を凝らした小上がりや、地域交流スペースもあり様々な行事で利用されている。ホームの全居室に水洗トイレを設置しプライバシーの保護にも配慮しているほか、扉、窓などは部屋ごとに形、取り付け方を工夫し、住みよい共用空間と居室作りがなされている。利用者の笑顔が印象的で、ホームを信頼し安心して生活している様子がうかがわれた。また、職員からは「寄り添うケア、訴えを見逃さないケア」、「自分も入りたいたいと思えるような施設でなければ勧められない」などの意見が出され、その思いも踏まえて質の高いホームづくりを目指し、地域と一体化した事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人「すべては愛から始まる」当事業所は「まちぐるみ福祉の拠点として」を方針と目標に掲げ実践している。	母体法人のすべては愛から・・・の理念に基づき、まちぐるみ福祉の拠点として具体的方針と目標を作成、管理者、職員が理念を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや個人商店への買い物・散歩。事業所内での催し物へ地域の方々を招待をし参加していただいたり、こちらからは今年度は盛町五年祭の山車の花作りや、道中踊りへの参加を実施している。	商店街の一員として総会に出席、買物は近くのスーパー、近隣の商店では魚などを購入、散歩を兼ねた買物で地域の人々と交流、駐車場を開放しての盆踊り大会開催、5年祭への参加などを通じ、地域との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回発行している「まちぐるみ通信」にて、認知症についての紙面を作成し、認知症の理解や支援の方法を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告、通信の回覧にて話し合っている。会議の際には必ず委員よりまちぐるみの取り組みについての意見等を伺っている。	運営推進会議は併設の蔵ハウス大船渡と合同で2ヶ月に1回実施しており、活動状況の報告が主となっているが、この会議の中で、5年祭への参加、地域防災協力隊の立上げが提案されている。	「グループホームまちぐるみ」の具体的な話し合いや、テーマを決めて委員を増やす等の積極的に関われるような働きかけと工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催や、大船渡市内の事業所及び市町村担当者が集まる事業所連絡会への参加をし、当事業所の状況等を報告している。	事業所連絡会には蔵ハウスと交代で、月1回参加している。市担当者から報告と連絡、各事業所からは利用状況と空き情報の報告がなされ、出席者全員が発表か発言をする場が持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット内にマニュアルを設置している。また、玄関・リビングからの出入りは自由であり、具体的な禁止行為は理解している。	月1回、職員が交代で「リスクマネジメント委員会」の講師となり、研修を行なっている。玄関等の出入りについては事業所内であれば職員、街中では商店街と近くの同法人の介護センターに声がけを行ない対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症リーダー研修会に参加し、職員にその内容を伝達している。入浴時や介助時は状態の観察をし、何かあれば(発赤や掻き傷なども)記録している。内部研修をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症リーダー研修会に参加し、職員に伝えている。内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約に加え、介護報酬改定等の際にも十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にて意見を聴取している。また、家族等が気軽に意見等を述べる施設長への直送便を設置している。利用者からは毎月懇談会を実施し、意見等を聴取している。	利用者との月1回の懇談会、施設長への家族直送便の導入、広報誌の通信欄記入、家族の訪問時に要望・意見の聞き取り(受付場所に時刻表・時計の設置)し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議を開催しその際に意見を聴取している。	会議は蔵ハウスと合同で実施しているが、「まちぐるみ」独自では廊下などへの手すりの設置、外に出ようとする利用者のストレス解消に散歩・ドライブを増やす等の要望・意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。具体的には、業務の見直し等を随時行い、勤務時間内での労働に取り組んでいる。また、職員会議等では、職員が意見を積極的に発言できる雰囲気作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には積極的に参加をしている。また、個々の質の向上には、毎日のミーティング時に簡潔なカンファレンス等を行い、トレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、主に外部の研修会等に参加した際に、交流や活動の情報交換をしている。岩手県GH協議会に出席し、その際にも情報交換等に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階で本人及び家族等から詳細に聞き取りを行い、また、担当ケアマネとの連携し本人の安神確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも上記に同じ。入所後は状況により面会時や電話等で知らせ、家族と相談しながら対応策を検討することもある。(受診対応など)			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後2週間は極め細かな状態観察を行い対応策を検討し、利用者に「その時」に一番必要な支援をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでも職員は利用者の生活をお手伝い・支援するという立場で接している。具体的には、共に調理をしたり、様々な場面で利用者の希望を取り入れ実践している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業者は半数以上の身元が遠方なので、2ヶ月に1度の広報誌の送付や日常生活を電話連絡等をしており、例え遠方であっても利用者の生活が理解できるような努力をしている。また、同室にて宿泊もしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に出向いたり、友人との交流を積極的に努めている。また、在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを促している。	近くの商店へ出向くこと、馴染の床屋に来て頂くこと、娘さんとの電話・手紙のやり取り、ゲートボール仲間と居室での歓談、家具(総桐のダンス)、位牌などの持込みを通じ、馴染の人や場との関係維持が図られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所全体を一大家族と捉え、毎日の食事や活動等に一同が会える事ができるよう雰囲気作りに努めている。その結果か現在居室にて孤立している方はいない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後退所者は2名いる。退所時移動先の事業所に本人のこれまでの様子を情報提供し、移動先での環境への不適應がないように心掛け、連携を密に図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者から直接、事業所での生活に対する希望等を伺っている。また、利用者懇談会にて個別に聞き取り等を行い、意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望については、入居時に家族を含め聞き取りを行っており、利用者の殆どは自分の気持ちを伝えることができ、暮らしの中で新しい発見があり、それらをケアに活かし、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、担当者会議を開催し介護計画及びモニタリングを行っている。その担当者会議の際には、家族等にも参加を勧め、参加できる家族は会議に参加をし、意見等を聴取している。	会議には2家族が参加、担当者が利用者の暮らしぶりなどを観察し、作成した介護計画の原案をもとに、全体で話し合い成案を作っている。参加が出来ない家族には面会時に、遠方の家族には電話・文書で意見・要望等を聴き取り、必要に応じ見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケース記録等を共有し、介護計画を再立案する際に見直しを行っている。特に計画の課題の他に出現した様子等は随時情報共有を行い、即時に対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業の利用者は他事業所の利用はないが、事業所内で生まれたニーズには柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時地域の方々が参加できる行事等を立案し、地域と共に暮らしを楽しむことができるよう支援している。色々な展示会や催し物の見学を実施。今年は、五年祭への参加や、道中踊りへの参加を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所では嘱託医をお願いしており、月2回受診をしている。また、専門医の受診は適宜判断し、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の嘱託医による診療を大半の利用者が受けており、中には嘱託医に変更した方もいる。かかりつけの専門医(眼科、皮膚科など)による受診は半数弱となっている。初診時は家族同伴での対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所では看護師は配置していないが、併設している事業所の看護師に随時相談等を行い、適切な受診ができるよう支援している。また、前述した嘱託医との連携にも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者は1名いた。状態により退院後の行先を家族と相談し合う。病院へは何度も足を運び、担当看護師に病状の説明を受ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、入所時に確認をしている。また、事業内ではターミナルケアのマニュアルを作成しており、職員間で方針を共有している。	職員間の意識統一や入居時の説明はなされているが、それに係る文書等は作成されていない。寝たきり状態でも食事ができ、医療行為が伴わなければ継続的な利用は可能であり、重度化に伴い母体の特養富岡荘への入所支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についても、マニュアルを作成している。また、施設内研修では心肺蘇生等を行い、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で消防訓練を毎月実施し、職員非常連絡網も作成している。また、地域との協力体制は現在構築に努めている。	4月に消防署立会いのもと、併設の特養との消防訓練、また月1回、特養と合同の防災訓練を実施している。大地震を想定(昼食の準備中に揚物の油に引火し出火)しての避難訓練は、中心部の厨房と居室の位置関係から避難口(玄関、ダイニング、奥のベランダ)を分散、効率的でより安全性の高い方法により実施されている。	夜間災害には、特養と併せ複数での対応が可能であるが、それと共に事業所内での協力体制の保持と、「まちぐるみ」の独自性をどう調整していくか、それらを踏まえ夜間を想定しての避難訓練、地域防災協力隊の構築等について今後の取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業では常に職員にすべてのケアの場面で「利用者の尊厳を損ねないように」との意識付けに努めている。現在言葉かけ等に関する苦情等はない。	採用時に法人全体で研修を実施している。特養ホームと合同の勉強会を月1回実施している。内部研修では、プライバシーについて、マニュアルで実施している。声かけは幼児語の使用を避け、語尾の使い方にも注意することや、「食べていない」の訴えには、否定せず気をそらしたり、軽いおやつで対応している。失禁には責めることはせず、誘導を工夫するなどして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言葉かけの中で実践している。すべての場面で常に利用者自身が選択できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者懇談会にて希望を伺い、それに沿った支援をしている。また毎日の予定を話し、利用者本位のケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、美容院や床屋、化粧品等の買い物ができる体制作りにも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に嗜好品の調査を行っている。また、準備や食事等は毎日利用者と共に実践し、職員も昼食時は一緒に摂れるように努めている。	職員が1週間分の献立を作り、実際に調理された内容を月1回、特養の管理栄養士に見て貰っている。食材にはプランターで作った自前のトマトなども使っている。好みはイベント食の実施や、テレビ放映の季節の料理を作ったりして食べている。また、月1回うなぎや寿司などの外食も楽しんでいる。早く食べたいとの希望には食事時間を20～30分早めるなどの配慮もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	例えば食事に関しては1日30品目以上の食材を摂取できるように心がけている。また、水分量等については、当事業所で取り入れているコンピュータシステムで管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践している。また、随時歯科受診等を行い、その際には利用者個人毎の口腔ケアの指導も頂いている。		



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	開設当初から利用者の排泄パターンに沿った排泄ケアを実践しており、排泄ケアは随時交換で対応をしている。	排泄支援は、定期的に声がけをし、利用者の排泄の状況は電子手帳のタッチペンで行ない、その内容はパソコンの各項目(対応内容等)に自動的に送信され、管理し把握がなされている。便秘の方には薬の服用を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・運動・習慣等を考慮しながら便秘予防に努めている。また、嘱託医と連携をし、時には下剤等の処方もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は決まっているが、他に希望があれば対応している。2日おきに入浴を楽しんでいる利用者もいる。	入浴の時間帯は午後2時から4時頃までで、1日あたり3～5人が入浴している。ほぼ順番が決まっている。1回ごとにお湯の交換をしている。パイタルは個々に添ったもので確認・対応している。入浴を楽しみにしている人が多く、清潔保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地域がらか入眠時間が早い方もおり、夕食時間を早目に対応している利用者もいる。また、日中行事等があった際には、疲労等も考慮し気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの内服表を作成し、薬剤師より提出された副作用及び用法や用量を理解と確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。入所後も定期的に嗜好調査等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては、食材料の調達等のために外出の機会を随時設けている。また、本人の希望等を考慮し、家族共々バスハイク等に出掛けている。	車椅子の方も買物に出かけたり、バスハイクで綾里ダム、陸前高田市の基石海岸等へ行っている。近所の散歩コースはショッピングセンター、商店街、市日の通り、神社、お寺等への外出や、衣類を取りに行ったり、仏壇の掃除で自家に帰る人などへの支援も行われている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での預り金はあるが、お金を所持している方々もおり、外出の際や家族等にお小遣いを手渡したり等、金銭の大切さを理解して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いたり、本人が希望した場合は直接電話等をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外は、常に季節感をかもし出すような装飾をしている。また、共用空間は出来るだけ暖かさを感じて頂けるような雰囲気作りに努めている。	全体的には「和」を大切に装飾品、調度品が置かれている。季節を感じさせる草花、広いリビングスペースの有効的な活用がされており、所どころにソファが置かれ、ゆったりと安心して過ごせるよう、また心身の活力を引き出すよう暮らしの場としての工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやリビング以外にも気の合った利用者同士で過ごせる居場所を確保している。また、併設事業所の地域交流スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを本人及び家族等にも促している。	居室は広いスペースと、ベット・トイレ・洗面台が備え付けられ、個々に位牌、桐のタンス、テレビ、写真、衣類ケース等々思い出の品々が自由に持ち込まれ、きれいに整理・整頓もされており住みよい環境づくりがなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境については、建設時よりバリアフリーや尊厳の保持を念頭に各居室にトイレを設置している。また、ユニット内だけではなく、地域交流が出来るスペースも確保している。		